

米国経済・金融概況 (2026年5月)

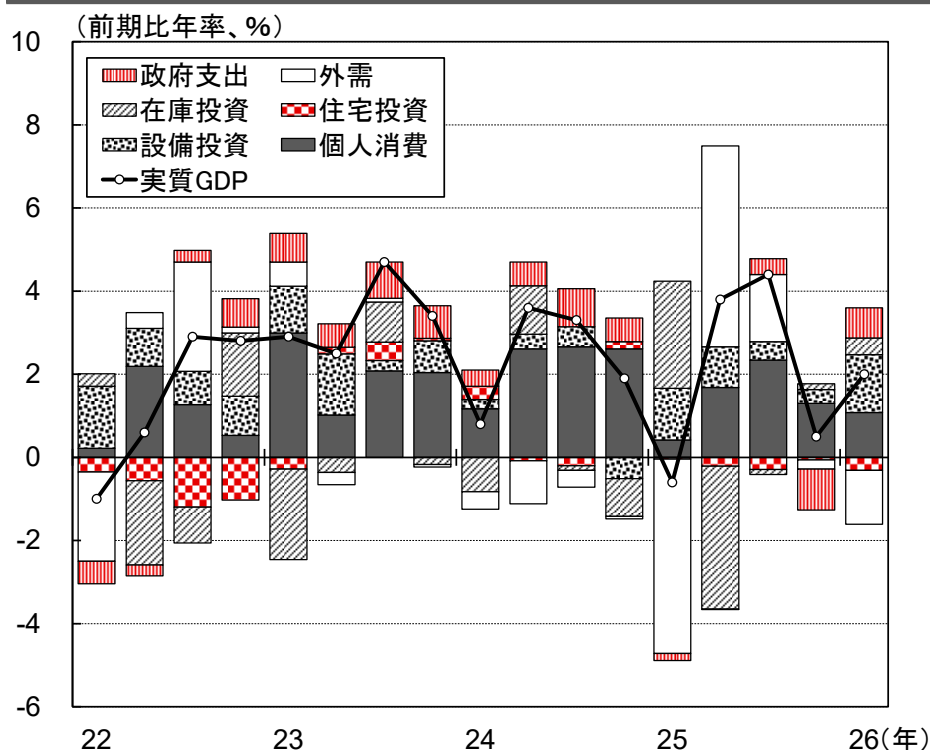
2026年5月22日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. GDP

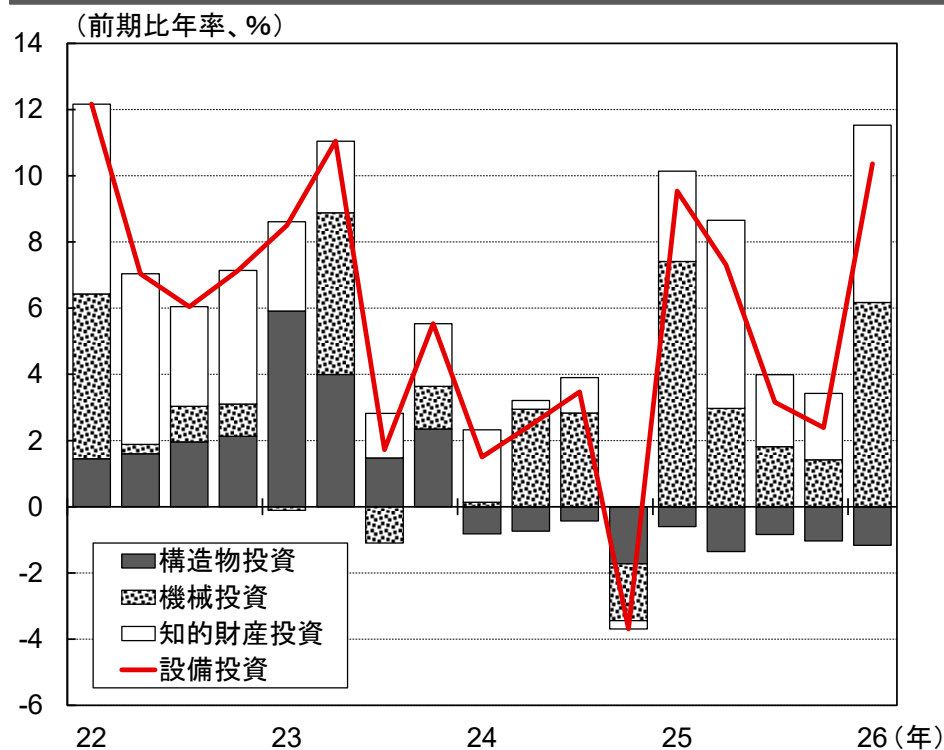
- 1-3月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率+2.0%と、市場予想(Bloomberg集計:同+2.3%)を下回ったものの、前期(2025年10-12月期:同+0.5%)から加速。景気の基調を示す国内民間最終需要(個人消費、設備投資、住宅投資の合計)は同+2.8%(前期:同+0.6%)と底堅く推移。
- 需要項目別にみると、全体の約7割を占める個人消費は同+1.6%(前期:同+1.9%)と伸びが鈍化。また、政府投資は同+4.4%(前期:同▲5.6%)と前期の政府閉鎖の解消に伴う反動増により全体を押し上げた。一方、輸入は同+21.4%(前期:同▲1.0%)と大幅に増加し、純輸出の寄与度は同▲1.3%ポイント(前期:同▲0.2%ポイント)とマイナスに寄与。住宅投資は同▲8.0%(前期:同▲1.7%)と5四半期連続で減少。
- 設備投資は同+10.4%(前期:同+2.4%)と加速。内訳をみると、機械投資は同+17.2%(前期:同+4.3%)、知的財産投資は同+13.0%(前期:同+5.4%)とそれぞれ大幅に加速。AI関連の情報処理機器やソフトウェア向け投資が拡大。

実質GDP成長率の推移



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

実質設備投資の推移

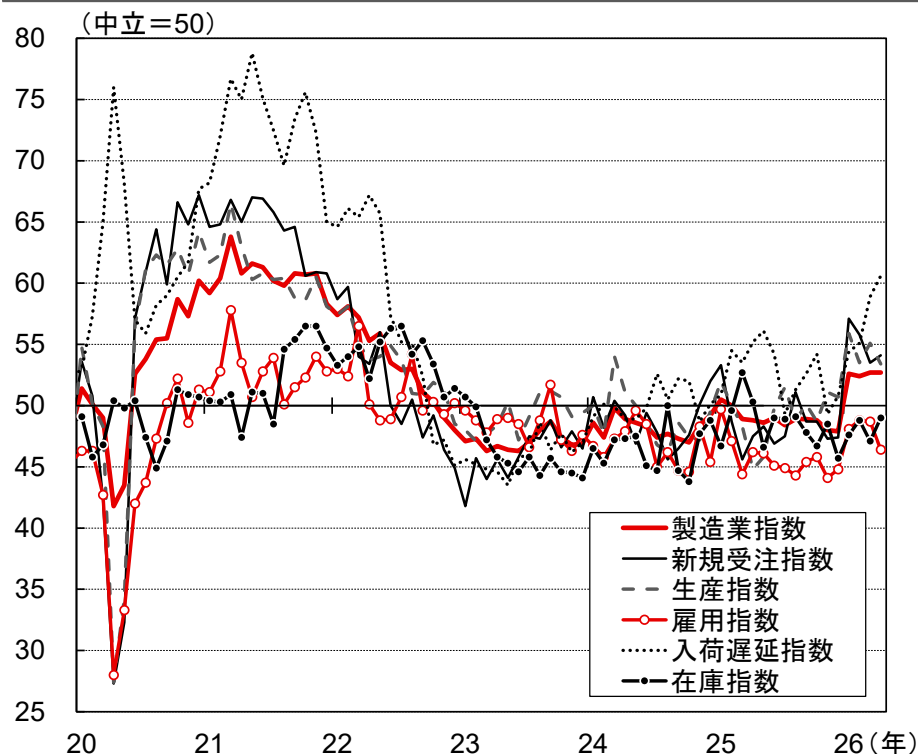


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 企業活動

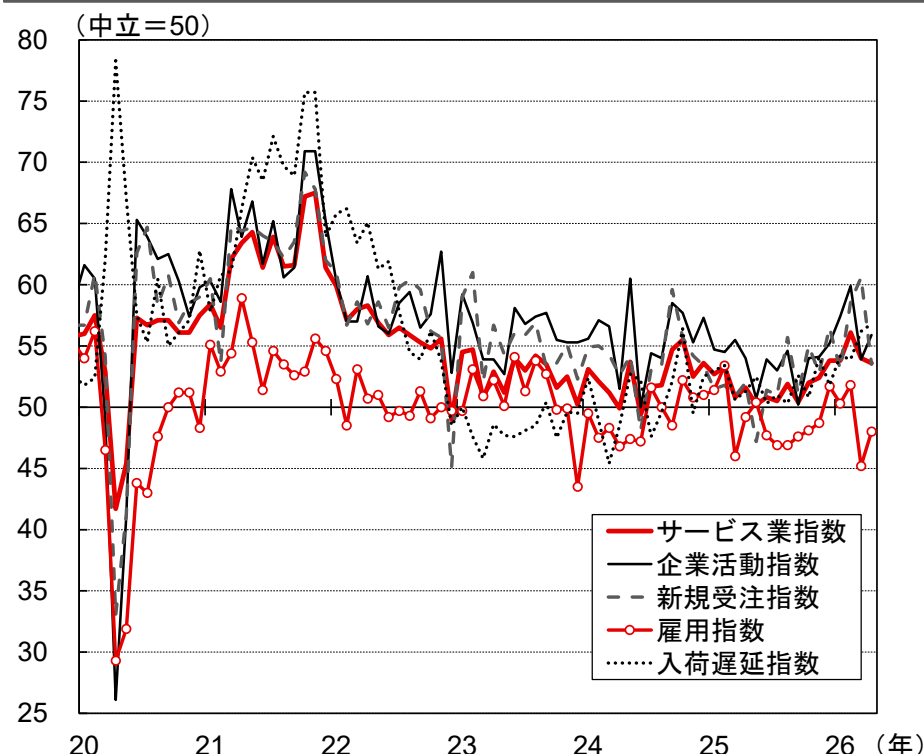
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合)は4月に52.7と前月から横這い。指数の構成項目をみると、雇用(46.4、前月比▲2.3ポイント)、生産(53.4、同▲1.7ポイント)は低下した一方、在庫(49.0、同+1.9ポイント)、入荷遅延(60.6、同+1.7ポイント)、新規受注(54.1、同+0.6ポイント)は上昇。また、価格は84.6(同+6.3ポイント)と2022年4月以来の高水準となり、回答企業の7割が価格上昇を報告したとISMは指摘。産業別では全18産業のうち13産業が拡大、3産業が縮小、2産業が横這いを報告(前月から不変)。
- 4月のISMサービス業指数(総合)は53.6(前月比▲0.4ポイント)と2ヵ月連続で低下。雇用(48.0、同+2.8ポイント)、企業活動(55.9、同+2.0ポイント)は上昇した一方、先行指標である新規受注(53.5、同▲7.1ポイント)が大幅に低下。ISMによると、原油価格上昇の影響は石油関連製品にまだ反映されていないと複数の企業が指摘。産業別では全18産業のうち14産業が拡大、3産業が縮小、1産業が横這い(3月は13産業が拡大、3産業が縮小、2産業が横這い)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

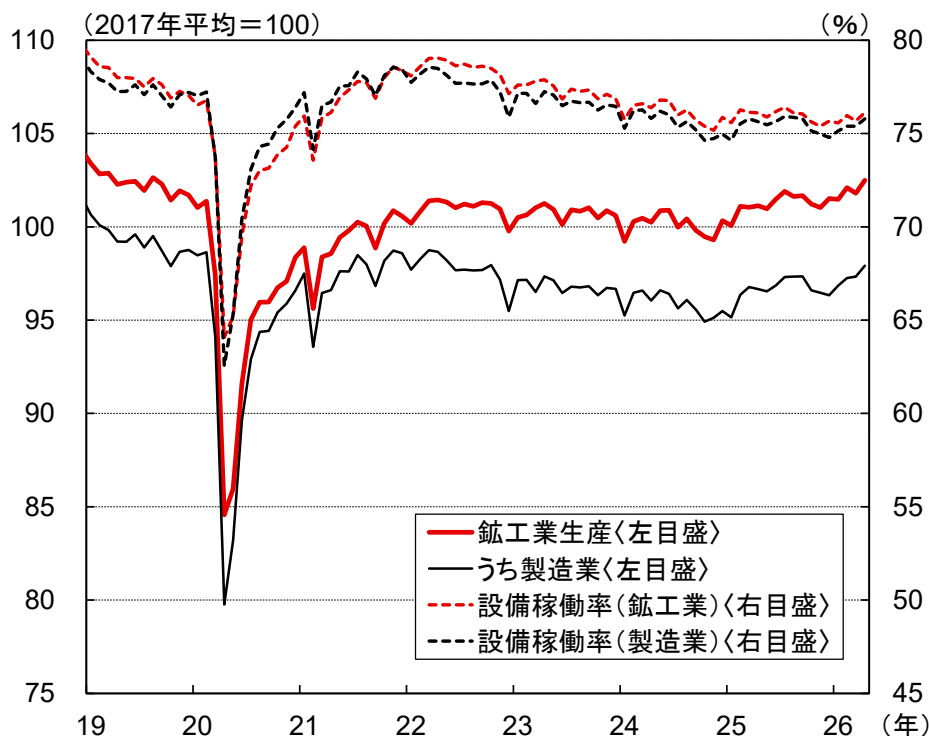


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 生産

- 4月の鉱工業生産は前月比+0.7%と2ヵ月ぶりに増加。産業別では、全体の約7割を占める「製造業」が同+0.6%と4ヵ月連続で増加。内訳をみると、「自動車・同部品」が同+3.7%と大幅に増加したほか、「航空宇宙・その他輸送機器」(同+1.6%)、「コンピュータ・電気製品」(同+1.5%)、「一次金属」(同+0.9%)、「機械」(同+0.6%)も増加。また、「鉱業」は同▲0.1%と小幅減少した一方、「公益事業(電気・ガス)」は同+1.9%と2ヵ月ぶりに増加。4月の設備稼働率は76.1%(前月比+0.4%ポイント)、うち「製造業」は75.8%(同+0.4%ポイント)とそれぞれ前月から上昇。
- 3月の耐久財受注は前月比+0.8%と増加。内訳をみると、「コンピュータ・電気製品」(同+3.6%)が大幅に増加したほか、「自動車・同部品」(同+1.3%)、「機械」(同+0.9%)、「電気機器・家電」(同+0.8%)、「一次金属」(同+0.5%)も増加。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+3.4%と大幅に増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料) FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

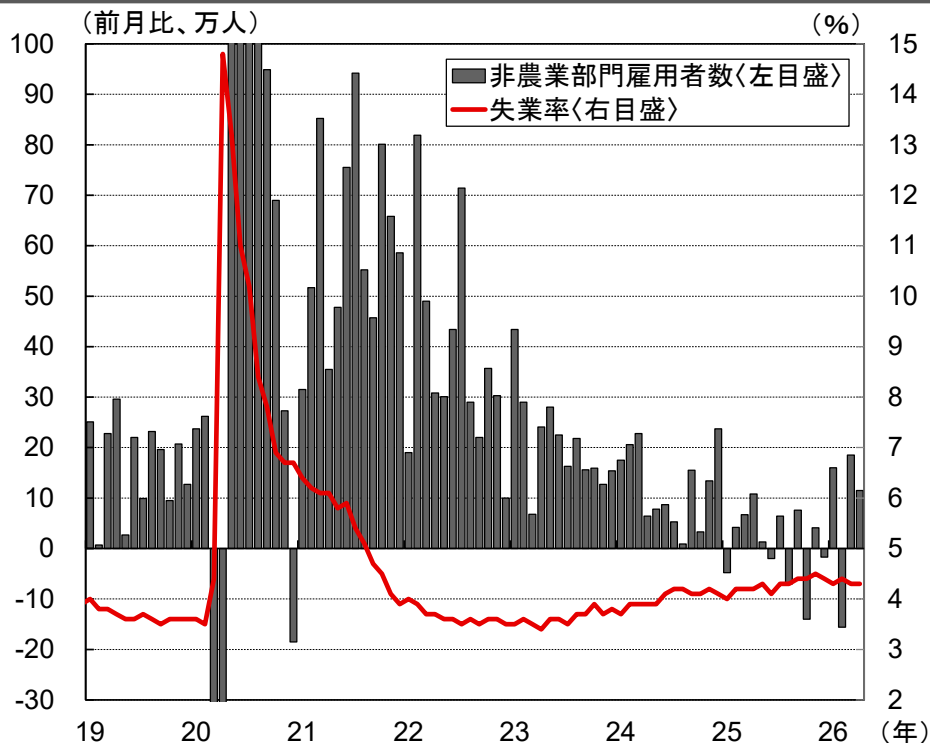


(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 雇用

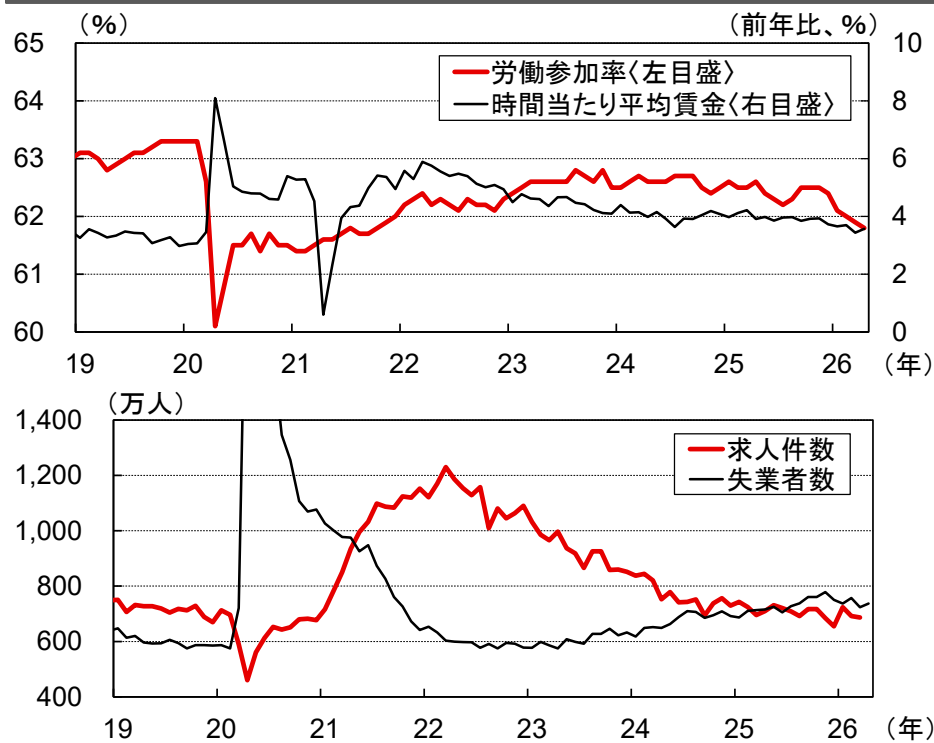
- 4月の非農業部門雇用者数は前月比+11.5万人(3月:同+18.5万人、改定値)と市場予想(Bloomberg集計:同+6.5万人)を上回る伸び。業種別にみると、「医療・社会扶助」(同+5.4万人)、「運輸・倉庫」(同+3.0万人)、「小売業」(同+2.2万人)、「レジャー・接客」(同+1.4万人)、「専門・ビジネスサービス」(同+0.7万人)が増加。
- 4月の失業率は4.3%と前月から横這い、労働参加率は61.8%(前月差▲0.1%ポイント)と5ヵ月連続で低下。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+3.6%と前月(同+3.4%)から加速。
- 3月の求人件数は686.6万件(前月比▲5.6万件)と2ヵ月連続で減少。求人件数を失業者数で割った求人倍率は0.95倍と前月(0.91倍)から上昇。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

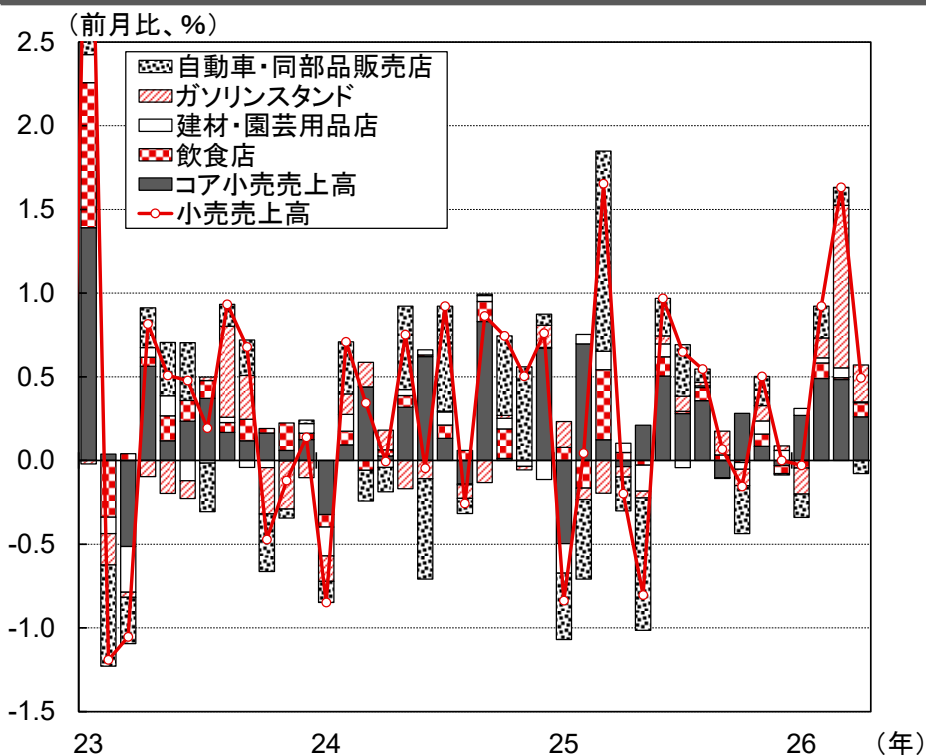


(資料)米国労働省より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 個人消費

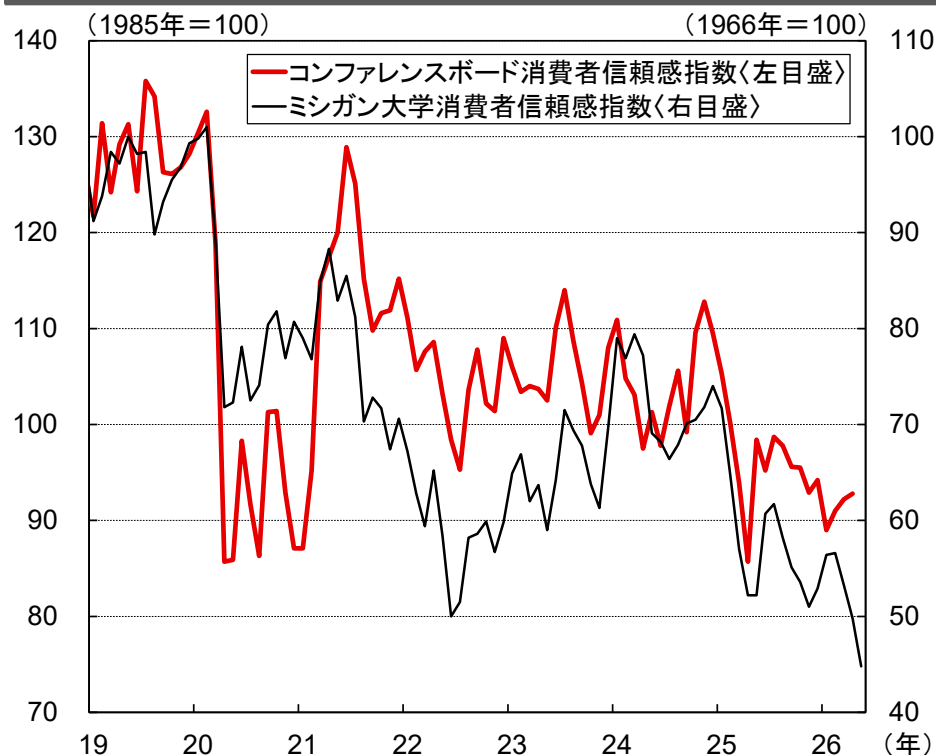
- 4月の小売売上高は前月比+0.5%（前月：同+1.6%、改定値）、コア売上高（自動車、ガソリン、建設資材、食品サービスを除く）は同+0.5%（前月：同+0.8%、改定値）とそれぞれ増加。業種別にみると、「ガソリンスタンド」（同+2.8%）、「電子機器・家電販売店」（同+1.4%）、「無店舗小売店」（同+1.1%）、「飲食店」（同+0.6%）が増加。一方、「家具販売店」（同▲2.0%）、「衣料品販売店」（同▲1.5%）、「自動車・同部品店」（同▲0.4%）は減少。
- 4月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は92.8（前月比+0.6ポイント）と3ヵ月連続で上昇した一方、5月のミシガン大学消費者信頼感指数は44.8（同▲5.0ポイント）と3ヵ月連続で低下。消費者は、インフレが一段と強まり、ガソリンにとどまらず他の分野にも波及することを懸念しているとミシガン大学は指摘。ミシガン大学の期待インフレ率は、1年先が4.8%（前月：4.7%）、5-10年先は3.9%（前月：3.5%）とそれぞれ上昇。

小売売上高の推移



（資料）米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

消費者信頼感指数の推移

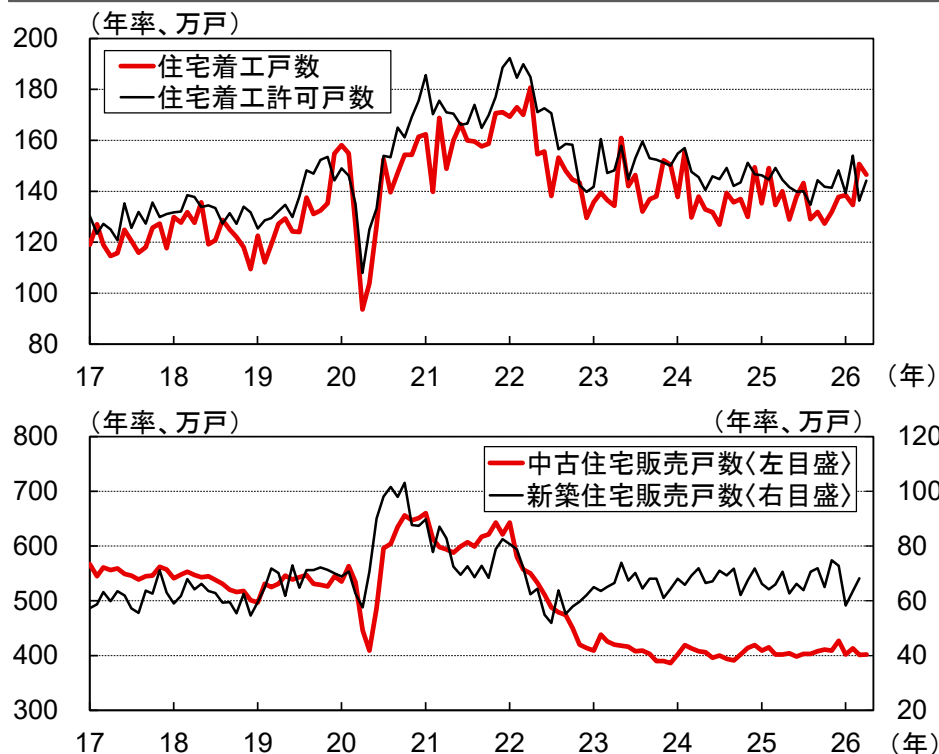


（資料）コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 住宅

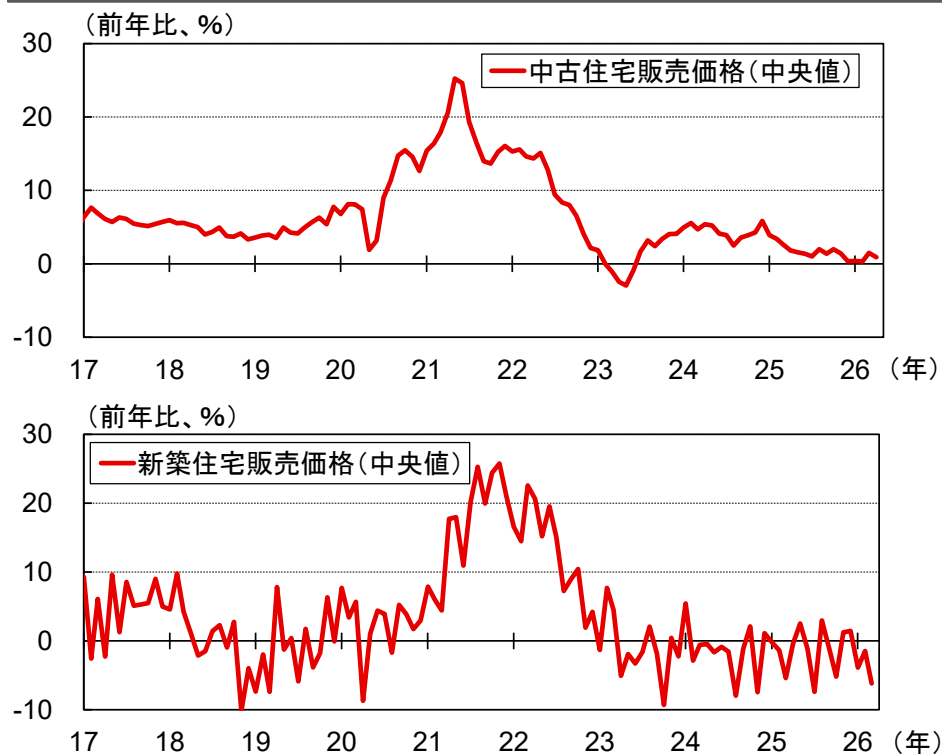
- 4月の住宅着工戸数は前月比▲2.8%(3月:同+12.0%)の年率146.5万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに減少。内訳をみると、一戸建住宅は同▲9.0%(3月:同+10.7%)の93.0万戸と3ヵ月ぶりに減少した一方、変動の大きい集合住宅(5世帯以上)は同+14.3%(3月:同+11.8%)の52.9万戸と2ヵ月連続で増加。先行指標である住宅着工許可戸数は同+5.8%(3月:同▲11.5%)の年率144.2万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。
- 4月の中古住宅販売戸数は前月比+0.2%の年率402万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。3月の新築住宅販売戸数は同+7.4%(2月:同+8.9%)の年率68.2万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で増加。
- 4月の中古住宅販売価格は417,700ドル(中央値)、前年比+0.9%(3月:同+1.5%)と伸びが鈍化。3月の新築住宅販売価格は387,400ドル(中央値)、同▲6.2%(2月:同▲1.5%)と3ヵ月連続で下落。

住宅着工戸数・許可戸数・住宅市場指数・住宅販売戸数の推移



(資料) 米国商務省、全米不動産業協会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移

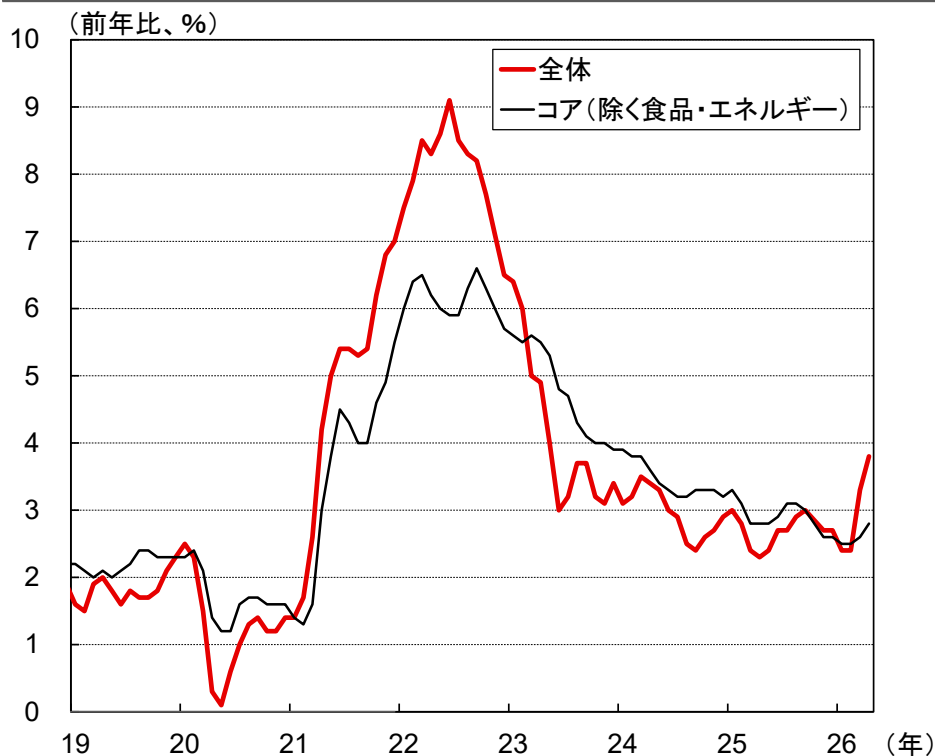


(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 物価

- 4月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+3.8%(3月:同+3.3%)と伸びが大幅に加速し、食品とエネルギーを除いたコア指数も同+2.8%(3月:同+2.6%)と加速。品目別にみると、「食品」は同+3.2%(3月:同+2.7%)と加速したほか、「エネルギー」は同+17.9%(3月:同+12.5%)と大幅に加速。イラン紛争に伴うガソリン価格の上昇が引き続き影響したとみられる。また、コア指数の構成項目のうち、「航空運賃」は同+20.7%(3月:同+14.9%)、「衣料品」は同+4.2%(3月:同+3.4%)とそれぞれ加速。「中古車」は同▲2.7%(3月:同▲3.2%)と下落幅が縮小。
- 4月の生産者物価指数は前年比+6.0%(3月:同+4.3%)、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+5.2%(3月:同+4.0%)とそれぞれ伸びが大幅に加速。内訳をみると、「財」は同+7.4%(3月:同+5.2%)、うち「エネルギー」は同+22.7%(3月:同+13.0%)と大幅に加速。また、「サービス」は同+5.5%(3月:同+3.9%)と6ヵ月連続で加速。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 国際収支

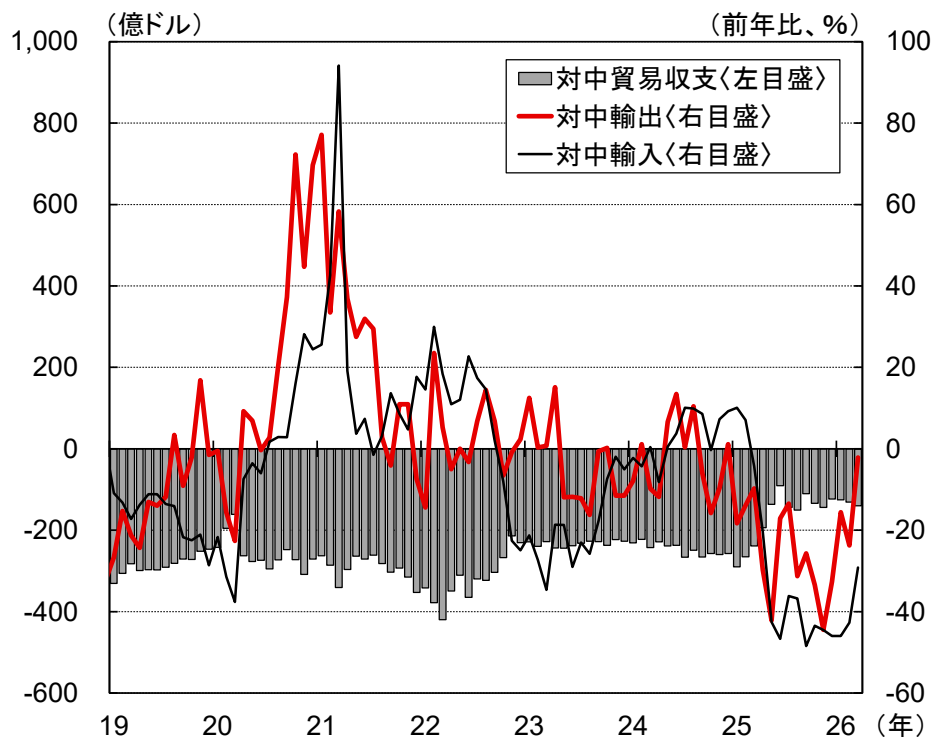
- 3月の貿易収支(財・サービス)は603億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+4.4%(同+25億ドル)と2ヵ月連続で拡大。輸出は同+2.0%(同+62億ドル)、うち原油は同+28億ドルと増加。輸入は同+2.3%(同+87億ドル)と2ヵ月連続で増加。前年比で見ると、輸出は+13.3%、輸入は▲9.0%。
- 財の貿易収支を国・地域別で見ると、中国は3月に140億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+7.0%(同+9億ドル)と3ヵ月連続で拡大。対中輸出(財)は同+23.5%(同+20億ドル)、対中輸入は同+13.5%(同+29億ドル)とそれぞれ大幅に増加。前年比で見ると、対中輸出(財)は▲2.1%、対中輸入(財)は▲29.2%とそれぞれ減少。
- 対EUの貿易収支の赤字幅は92億ドル(前月比+41億ドル)、対カナダは36億ドル(同+29億ドル)とそれぞれ拡大。一方、対台湾は206億ドル(同▲5億ドル)、対メキシコは164億ドル(同▲5億ドル)、対日本は41億ドル(同▲6億ドル)と縮小。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注) 国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注) 通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

9. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、原油価格の高止まりに加え、4月の消費者物価指数が市場予想を上回る強い結果となり、生産者物価指数も上振れたことでインフレ懸念が強まり、4.6%台まで上昇。金融市場では、FOMC以降、年内の利下げ観測が後退し、政策金利の据え置きが意識される中、消費者物価指数の上振れを受けて利上げ観測が一段と高まっている。
- S&P500は、堅調な企業業績やAI関連需要への期待背景に上昇基調を強め、5月14日に史上最高値を更新。もっとも、足元では長期金利の上昇やインフレ懸念の高まりから、上昇は一服。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

S&P500種株価指数の推移



(資料) S&Pより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先：ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp